

## 西経協総会決議の要望

中部以西の6経済連合会で構成する西日本経済協議会は、去る9月9日高松市で開催した第50回総会の決議「地域の自立による新たな『国のかたち』の創造—西日本からの提言—」に係わる要望活動を12月12日に行った。

同活動は、流動的な政局を睨みながら再三に亘って適切な時期を模索し、12月

12日に実施することで諸準備を進めてきた。

しかしながら、国会審議の関係から直前になって、6経済連合会の会長等が一堂に会して麻生総理以下関係大臣、自民党3役に面会して要望することを断念し、代わって幹事団体である四国経済連合会の専務理事、事務局長が、総理大臣秘書官等に決議文を手交した。

## 名古屋港飛島ふ頭南側第2バースの完成・供用開始式典が行われる

12月6日、名古屋港飛島ふ頭南側第2バースの完成・供用開始式典が加納国土交通副大臣、名古屋港港湾管理者の神田愛知県知事、地元選出の国会議員、港湾関係者等約100人が出席して開催された。

式典は主催者として佐藤中部整備局長に続き、神田愛知県知事が「最新鋭のシステムを武器としてさらなる国際競争力の

強化に邁進してほしい」と挨拶した。

その後、来賓として加納副大臣、地元選出の国会議員等が挨拶を述べ、主催者、来賓によるくす玉割りが行われた。

最後に、わが国で初めてとなるAGV(自動搬送台車)及び遠隔操作によるトランスファークレーンが連動した自動化ターミナルが披露された。

## 第5回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム

12月13日、大学の連携組織である全国大学コンソーシアム協議会が主催する「第5回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム」が名古屋大学で開催され、中経連からは川口会長が「持続発展する豊かな地域づくりを目指した産学官連携」と題して、基調講演を行った。

このフォーラムは、5年前に始まり、全国各地の大学コンソーシアムが参加し、「大学の発展と地域の活性化」を目指した取り組みを展開。中部地域で初めて開催され、全国から大学や自治体関係者ら約350名が参加。

基調講演後、シンポジウムが行われ、川口会長、白井(株)中日新聞社代表取締役会長、清水文部科学省生涯学習政策局長、若原(財)大学コンソーシアム京都副理事長(龍谷大学・短期大学部学長)がシンポジストとして参加し、産学官連携について、議論を交わした。



## 中部国際空港利用促進セミナー in 滋賀・福井 中部国際空港利用促進協議会

中部国際空港利用促進協議会では、大津市(12月9日)、福井市(12月10日)に於いて「中部国際空港利用促進セミナー」を開催した。

これは当地域における中部国際空港を利用した国際線旅客増を狙いとして地元旅行会社を対象に、中部国際空港(株)とセントレアに就航している航空会社で構成されている名古屋エアラインズアソシエーション(NAA)の協力も得て開催した。

まず、中部国際空港(株)から「中部国際空港の近況と利用促進に向けたご提案」

について説明し、その後セントレア就航航空会社からのプレゼンテーションを行った。最後には、航空会社と旅行会社が、直接、意見・情報交換ができるよう懇親会も行い、盛会裡に終了した。

また、滋賀県の和田商工観光労働部次長、福井県の旭副知事への表敬訪問もあわせて実施した。両県ともにセントレアを活用したインバウンドの需要拡大について連携を図っていくことなど、意見交換を行った。

## セントレア出前社会見学 中部国際空港利用促進協議会

中部国際空港利用促進協議会では、12月11日に愛知県設楽町立田口小学校に於いて、セントレア出前社会見学を行った。

中部国際空港セントレアへは、年間1万人を超える児童が社会見学に訪れるが、遠隔地等の理由で、セントレアでの社会見学に参加できない学校もある。そこで、当協議会が実際にセントレアの社会見学で行っている内容を学校へ出前することにより、セントレアに対する理解、関心を高めてもらい、将来のセントレアのファンづくりを目指している。

当日は、セントレアの環境の取り組みや飛行機の魅力について、クイズや実験

を交えながら楽しく学習した。その後モデルプレーンを制作し、飛ばして楽しんだり、セントレアのキャラクター「なぞの旅人フー」と交流するなど、セントレアを身近に感じてもらった。



## 航空会社との訪日旅客誘致促進事業 中部国際空港利用促進協議会

中部国際空港利用促進協議会では、中部運輸局・中部国際空港(株)と共催で、12月7日～13日に中部国際空港セントレアより直行便が就航している中国／広州路線を活用した、訪日旅客誘致促進事業(観光視察会・商談会)を実施した。

本事業は、訪日団体旅客の一層の誘客を図る為、広州路線の就航航空会社の協力を得て、現地旅行会社の商品造成担当者及びテレビ局を含む現地メディア関係者(10社・12名)、航空会社の日本路線企画担当者(2名)を招請。

観光視察会では、旅行商品の多様化、販売拡大に向けて、中部圏の歴史・文化・自然の認知度向上のため、松本・新穂高・高山・白川郷・氷見・金沢・山代・伊賀・松阪・名古屋を案内。

12日には名古屋市内で商談会を開催。



広州側の招請者と観光視察先の担当者が一堂に会し、観光視察での訪問先に誘客を図るためのPR・旅行商品造成に向けて具体的な検討を行った。

その結果、広州では南方電視台(TV局)での旅番組や、雑誌社「新現代画報」が発行している「LIFE TRAVEL・旅遊」などで中部地区が紹介された。中部地区への旅行商品の造成についても、現地旅行社にて3月販売開始を目標に現在検討が進んでいる。

## 中部国際空港(株)が第12回顧問会議を開催

中部国際空港(株)は12月16日、愛知、岐阜、三重の各県知事、名古屋市長、経済界の代表者等で構成する顧問会議を名古屋市内で開催、中経連から川口会長が出席した。

当日は、平野空港会社会長から挨拶、稲葉同社社長から近況報告があった後、意見交換が行われた。川口会長からは「二本目滑走路については、神田愛知県知事を会長とする中部国際空港二本目滑走路建設促進期成同盟会が設立され、誠にありがたい。今後も愛知県主導のもと、中経連としても努力していきたい。また、西知多道路はセントレアへ直結する極めて重要な

アクセス道路である。セントレアの利用価値を高める意味でも必須の道路であり、早期完成を望みたい」と述べた。その他、出席者からは空港アクセスの充実、利用促進に向けた取り組み、空港の魅力づくり等について意見が出された。稲葉社長からは「現在は大変厳しい状況にあるが、航空貨物需要、インバウンド需要の拡大を二本柱に取り組みしていきたい。また、空港への来港者を取り戻すことも重要であり、魅力づくりについても重点的に取り組み、この苦境を乗り越えて、二本目滑走路の実現へつなげていきたい」との発言があった。